

## インターバンクの声（2014年8月29日）

昨晩は、米国の第2四半期GDP改定値が速報値から上方修正されたものの、ロシアとウクライナの間緊張の高まりが材料視され、円がほぼ全面高の展開となった。

ウクライナのポロシェンコ大統領は安全保障会議を招集し、ロシアに対して防衛を強化するなど、解決にはまだ今しばらく時間がかかるだろう。ただ、昨日発表された米失業保険申請件数や中古住宅販売成約指数の数字も比較的良好で、足元の米国経済は比較的堅調と捉えてもよいのではないだろうか。

地政学リスクの名の下に、一方的なドル買い相場には簡単には向かわせてくれないが、最近のドル高トレンドを壊すまでには至っていない。また、ユーロや豪ドルの値動きも静かになっており、今週はこれ以上の波乱は起きないのかもしれない。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。